

議事録 兼 報告書

会議名称	伊那市上下水道事業運営審議会
日 時	令和7年3月26日（水） 13:30～15:00
場 所	伊那市役所 502会議室
議 事 内 容	
<p>(進行 水道部長)</p> <p>1 開会のことば 水道部長</p> <p>2 委嘱書交付（机上配布）</p> <p>3 あいさつ 市長</p> <p>4 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会委員自己紹介 ・関係職員自己紹介 ・伊那市上下水道事業運営審議会条例の要旨説明 <p>5 会議事項（(2) から議長 会長）</p> <p>(1) 正副会長の選任について 委員から、事務局に一任したいとの発言があり、水道部長から事務局案を提案、委員の承認により決定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 長 岡野 哲郎 氏 ・副会長 駒井 啓晃 氏 ・正副会長就任あいさつ <p>(2) 伊那市の上下水道について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により事務局説明 ・質疑なし <p>(3) 伊那市水道事業経営戦略・下水道事業経営戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により事務局説明 ・質疑なし <p>(4) 令和7年度水道事業及び下水道事業会計予算の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により事務局説明 ・質疑討論 <p>(委 員) 上水道と下水道の両方に関係しますが、支出の中で減価償却費が大きな割合を占めています。多くの設備は老朽化していることから、減価償却費は年々減っていくので</p>	

はないかと思いますが、今後はどのような見通しであるか教えてください。機器の更新や新たな施設の整備等により新たな減価償却が始まり、同程度の支出が続くということでしょうか。

(事務局) 水道事業は、昭和40年代から50年代にかけて建設した施設や管路を耐用年数に応じて計画的に更新しています。施設等の更新により、新たな資産を取得することになりますので、今後も目に見える形で減価償却費が大きく減るということは無いと考えています。下水道事業は、供用開始から30年足らずという状況で、施設整備を短期間に急ピッチで進めてきた経過があり、その積み上げによる費用ということになります。50年ほど経過すると更新時期を迎えますが、費用負担の見通しは、概ね水道事業と同じであると考えております。

(委員) 大きくは減らないと考えてよろしいですか。

(事務局) そのとおりです。

(委員) わかりました。ありがとうございます。それから、埼玉県で下水道の大きな事故がありました。事故を受けて事業を増やしたり、前倒した工事ということはあるのでしょうか。

(事務局) 埼玉県の事故現場は、深い場所に大口径の下水道管が布設されておりました。伊那市の中で一番太い口径の管は天竜川を横断している管になりまして、口径が約1mのものでございます。次に太い管が市役所周辺にあるもので、口径は約80cmになります。管理上、管の中に土が流入したり、汚水が流れなくなった場合は、処理場で把握できる仕組みになっておりまして、今のところ異常はありませんし、調査に要する特別な費用も来年度は予算計上しておりません。過去には、古い管の中にカメラを入れて調査を実施したこともあり、異常があればその都度修繕を行ってきております。また、建設部の事業になりますが、車両にレーダーを付け、走行しながら道路の下の空洞を把握する調査を進めておりまして、下水道管が埋まっているところで何らかの異常があれば把握することができます。伊那市には埼玉県の事故のような大口径の管は無いということで、ご安心いただければと思います。

パンフレットの9ページに下水道管・マンホールや天竜川横断管きよの写真に掲載しておりますので、ご覧いただければと思います。埼玉県の事故現場の管は口径が約5mある下水道管ですので規模が全く異なりますが、過去にはこうした管の中にカメラを入れ、調査を実施したという経過もございます。

(会長) 他にございますか。

(委員) 水道事業も下水道事業も経営的には行き詰っているというか、入ってくる収入だけでは費用を賄えず、多額の減価償却もある中で、借金をしなければ経営が回らないという状況であると思いますので、料金の値上げも含め、検討していかなければならないということはおわかりました。市内の広範囲に様々な施設や設備がありますが、これは伊那市特有の地理的な事情や背景によるものか、ということをお伺いしてもよろしいでしょうか。冒頭の説明でもありましたが、料金水準が県内でも高い位置にあるのは、地形などの問題からたくさんの設備が必要で、それらを維持していかな

ければならないからということでしょうか。

(事務局) 下水道については、小さな集落が点在している地域もあり、それなりの施設の数が必要になりますし、水道についても山間部へ水を給水するという使命もありますので、住宅が密集している都市部と比べると料金が高くなってしまうのは仕方のない部分もあると考えております。

(委員) 企業経営の視点で考えると、それらを集約して余った固定資産を売却し、キャッシュを増やしていくということを考えていかなければならないと思いますが、水道や下水道の分野では、そうした集約化が難しいという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) 集約できるところは施設の統合を進めており、今後も計画がございます。図で説明したいと思いますので、パンフレットの8ページをご覧ください。現在、特環の⑥と⑨のエリアを統合し、⑨のエリアの汚水を①まで流して処理する計画であり、⑨にあった美篤東部浄化センターを令和7年4月に廃止する予定です。また、⑪の農集のエリアですが、令和3年に③の特環のエリアと統合し、⑪の処理場を廃止したという経過もございます。今後の予定としては、⑬のエリアを⑤の殿島浄化センターへ繋ぎ込むことを考えておりますが、⑤の処理場の処理能力が限られていますので、処理能力を上げれば、⑩、⑫、⑬あたりの処理場を統合できるということになります。集約できるところは統合を進めていきたいと考えておりますが、距離が離れているなど、地形的に統合ができない処理区については、国の補助金等を使って機能強化工事を進め、今後も処理場を維持していく計画でございます。

(委員) 上下水道は未来永劫生活に欠かせないライフラインですので、今後も定期的に施設や設備の更新を行う必要があると思いますが、将来の負担が増えないように、統廃合できるところは統廃合するなど、効率化を進めていただければと思います。ちなみに廃止した施設の建物や施設用地は、どのように処理されているのでしょうか。

(事務局) 西春近の小出南部にあった処理場は、地元の農業法人へ事務所の一部をお貸しして家賃収入を得るなど、有効活用に努めています。また、建物の余ったスペースは、非常時に活用できるものを保管する資材倉庫として活用しております。今回統合する美篤東部浄化センターも資材倉庫として活用する予定になっております。なお、国の補助金を活用して建設した施設になりますので、耐用年数未満で取り壊しを行うと補助金の一部について返還を命ぜられる可能性もあります。財産処分の制限年数の間は、施設を有効に活用していきたいと考えております。

(委員) 費用構造をみると、経営全体に大きく影響を与えることではないと思いますが、現金化できる取組があるとすれば、工夫していただき、少しでも経営に寄与できるような形で進めていただくことが望ましいのかなと思いました。事情を良く知らない中で質問してしまいましたが、ご回答ありがとうございました。

(会長) 統廃合の話も出ていましたが、数年先ではなく、中長期の視点で考えていくことが重要になると思います。施設の統合を進めるためには、処理能力が足りないという説明もありましたが、処理能力を上げるために追加投資をする場合は、何年で費用を回収できるのかなど、細かくシミュレーションしていく必要があると思います。お金を

かけて整備したけれど思ったような効果が出ないとか、反対に、予想どおりにならなかったけれど意外と効果があったとか、人口減少が進む中でいろいろなことが起こると思います。人口減少も市内全域で一律というわけでもなく、地域ごとに差が出てくる部分もあると思いますし、先を読み辛いことは確かだと思いますが、中長期のシミュレーションに基づいて先々の計画を考え、効率化を進めていく必要があることは間違いないと思います。

居住や生活サービス機能を集積するコンパクトシティ構想という考え方もありますが、この地域ではそう簡単にいく話ではないと思っています。

他にはよろしいでしょうか。来年度は料金改定についての協議をお願いすることになります。先ほど事務局から増額改定の必要性についての説明もありましたが、現在の料金や使用料が適正なのかどうか、人口が減少する中で増額改定が必要なのか、あるいは料金の値上げをせず据え置きのみで何かできることは無いのか、という様々な視点で議論をいただければと思います。皆さんからいろいろなご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(5) 伊那市上下水道耐震化計画について

- ・資料により水道整備課長説明
- ・質疑討論

(会 長) 能登半島地震を始め、昨今の自然災害で特に上水道が機能しなくなったことを受けて、国交省から計画策定の要請があったものだと思いますが、全ての施設を一度に耐震化できるわけではないので、優先順位を付けて、広範囲で同時にシステムダウンしないようにという危機管理の感覚で進めていくことが重要ではないでしょうか。この地域は多くの活断層があり、地形的にも災害リスクの高い地域だと思います。お金をかけて対策を進めたけれど、期待していた効果が無かったということでは悲しいと思いますので、そうならないことを願っております。予算的にも厳しい部分はあると思いますが、少しでも安心・安全に暮らせるように取組を進めていただければと思います。

(6) その他

- ・なし

6 その他

- ・次回会議日程の確認（7月に開催予定）

7 閉会のことば

副会長

以 上